

平成30年第1回那覇港管理組合議会（2月定例会）

平成30年度 施政方針

平成30年2月7日

那覇港管理組合

平成30年度 施政方針

ハイサイ、グスーヨー チューウガナピラ。

平成30年 第1回定例会の開会にあたり、各議案の御審議に先立ちまして、那覇港運営にあたっての施政方針について申し述べ、議員各位、県民・市民の皆様のご理解・ご協力を賜りたいと存じます。

1. 運営の基本姿勢

現在、那覇港管理組合の最大の事業であります那覇港総合物流センターにつきましても、物流棟の^{とう}本体工事に着手し、本年10月の完成に向け順調に工事を進めております。

また、物流センターの運営者につきましても、先月優先交渉権者が決定し年度内には事業契約締結の予定であります。

取扱貨物量の増加に向けては、那覇国際コンテナターミナル株式会社 ^{ニクティ} NICTIと連携し、新規航路誘致等、積極的な取り組みを行っているところであります。

このような状況において、昨年的那覇港の外貿コンテナ貨物は、速報値で約7万4千^{ティ-イ-ユー}TEU、平成28年から約1%増となっております。外貿コンテナ定期航路に関しましては、新たに北米航路が開設されました。

今後、港湾施設の整備とあわせ、新規航路誘致・輸出貨物増大などの取り組みを着実に実施し、港湾機能の強化を図ってまいります。

クルーズ船につきましては、昨年は過去最高の224回の寄港がありました。今年は12月31日時点で、過去最高だった昨年をさらに上回る292回の寄港予約が入っております。近年はクルーズ船の大型化が進展しており、那覇クルーズターミナルでは受け入れられない13万トン級を超えるクルーズ船の国際コンテナターミナルでの受け入れが増加しております。国際コンテナターミナルでの受け入れは今年の予約において63回にも及び寄港するクルーズ船の21.6%を占め、毎年増加し続けている状況であります。このような需要への

対応、クルーズ客の満足度の向上、乗降時の安全性向上の観点から、第2クルーズバースの整備が急務となっております。

引き続き、クルーズ船の円滑な受入れ、クルーズ船客せんきやくの満足度向上に向けた様々な取り組みを進めてまいります。

一方、大規模災害への対応や一部老朽化した港湾施設の改修についても十分な対策を行い、安全でかつ利用者の信頼に応えられる港づくりを進めてまいります。

また、浦添ふ頭計画につきましては、沖縄県全体の将来を見据え、懸案事項の早期解決を図り、港湾計画改訂に向け取り組んでまいります。

2. 平成30年度予算編成

平成30年度の予算編成にあたっては、ただいま申し述べました基本姿勢に基づき、また、限られた財源の中で沖縄振興特別推進交付金を積極的に

活用しつつ、重要な施策に効果的に配分することを基本としております。

その結果、平成30年度予算案は、
一般会計において54億5,298万3千円
特別会計において20億4,787万円
の規模となっております。

(主要事業の説明)

平成30年度の主要事業について、4つの重点施策に沿って説明いたします。

1) 流通港湾としての機能強化

物流機能の高度化を図るとともに、流通加工等により付加価値の高い貨物を創出する那覇港総合物流センターに関しましては、本年10月の完成に向け、工事を行っており、運営事業者は公募により本年1月に選定され、来年4月の開業に向けて準備を進めております。

また、海上物流コストの低減に資する片荷輸送の解消、貨物量増大に向け、荷主及び船社を対象と

した実証実験を行います。

2) 国際観光・リゾート産業の振興

急増するクルーズ船の需要に対応するため、クルーズ船客せんきやくを受け入れるための「おもてなし」として、歓迎セレモニー等を実施してまいります。新港9号・10号岸壁における受け入れに関しましては、クルーズ船客受入円滑化のため新港ふ頭船客待合所の改修等を実施してまいります。また、第2クルーズバースに関しましては、早期の実現に向けて取り組みを進めてまいります。

ポートセールスでは、クルーズ専用の泊とまり8号岸壁での寄港曜日の平準化に努めるとともに、沖縄県等とも連携して欧米・オセアニア系クルーズ船の寄港増を目指してまいります。

また、離島振興に資する取り組みも重要であり、離島航路の拠点である泊とまりふ頭地区において、離島住民や観光客の快適性・利便性の向上を図り、離島航路を支える取組を進めてまいります。

3) 安らげる空間づくり

^{りんこう}臨港道路浦添線の^{かんしょうしゅうけい}緩衝修景緑地として、浦添ふ頭地区において東側^{ひがしがわ}緑地の整備を進めてまいります。

また、那覇港のウォーターフロント地区において、那覇クルーズターミナルを活用したイベントの開催等により賑わいを創出するなど、那覇港の魅力を発信してまいります。

4) 港湾施設の安全性の向上・災害対応力の強化

大規模地震発生時に円滑な救命活動や物資輸送を確保するため、沖縄県 地域防災計画 緊急輸送道路に指定されている^{りんこう}臨港道路 港湾2号線における液状化対策を進めてまいります。

また、老朽化が進む港湾施設の安全性を確保するとともに、予防的な保全により既存施設の延命化を図るため、護岸の改修、設備の更新、上屋の改修等、港湾施設の計画的な維持管理に取り組んでまいります。

ヒアリの定着防止については、今年度も引き続き

対処してまいります。

これらの事業を進めるため、平成30年度予算に所要額を計上しております。

以上、平成30年度那覇港の運営にあたり、私の所信および主要な事業について述べてまいりました。

成長著しいアジアのダイナミズムを取り込み、沖縄県の経済発展と県民生活の向上を図るためには、那覇港の発展は必要不可欠であります。

そのため、今後とも那覇港の効率的かつ適正な管理運営と整備に全力を尽くす決意でございます。

議員各位及び県民、市民の皆様のご理解とご協力を改めてお願い申し上げまして、私の施政方針といたします。

イッペー、ニフェーデービル。